現場の声
Real Voice

主に０～３歳の乳幼児とその保護者、妊娠中の方の支援を行う「子育て支援センター」を訪問しました。センターを利用している桂川楓さんと塚本裕子さんに、子育ての悩みや不安に思っていることなどをお聞きしました。

初めての子育てで分からないことが多く、「周囲と比べて発育がどうなのか」「好き嫌いがあり食べない」など、不安や心配な思いをすることが多かったです。現在、２人目を妊娠しているのですが、コロナ禍で外出できず、子どもと２人きりの時間が多く、１人になりたいな思うこともありました。

今は、子育て支援センターに通うようになり、先生やママ友に相談することにより、悩みが解消でき、少しずつ余裕を持つことができています。

自分の時間は、朝昼晩ありません。１時間だけで良いから、買い物やゆっくりとした食事、友人とのお茶をする時間が欲しいです。

落ち込んでいるときに子どもの笑顔を見ると、「この子がいれば何もいらない」といった前向きな気持ちになれます。ただ、心に余裕がないと、そのような気持ちになれないので、心の余裕を保つことも大切だと感じています。

コロナ禍で大変ですが、子育て支援センターを活用しリフレッシュするなど、自分にできることをしていきたいです。

桂川 楓 さん
七綺ちゃん（1歳8カ月）

一時間だけでも良いから、ホッとできる時間が欲しい

塚本 裕子 さん
莉生ちゃん（10カ月）

２人の子どもを育てていますが、それぞれで離乳食を食べなかったり、夜寝てくれなかったりなど育児の悩みが違い苦労しています。ゆっくり本を読むなど自分のやりたいことはたくさんありますが、今は自由な時間があればとにかく寝たいです。

月齢にあった発達ができているかなど、ふとした疑問や不安を持ち、インターネットで調べますが、情報が溢れすぎて何が正しいのか分からなくなります。その点では子育て支援センターを利用することにより、先生に相談でき、落ち着くことができます。

大変なこともたくさんありますが、子どものニコニコした表情を見るといやされたり、日々の成長を感じることでうれしい気持ちになったりします。子どもの成長過程を広い視点で考えると、辛いのは今だけですので、今を頑張りすぎず楽しみたいなと思っています。また、子どもにはママの気持ちが伝わりますので、「ママが笑顔」も大切にしていきたいです。

自由な時間があれば、とにかくゆっくり休みたい

少子化の背景には、核家族化が進むなど、家庭内での子育て支援を受けにくくなっていることなども一因として挙げられます。また、それに伴い、子育ての悩みを抱える保護者が増えています。この傾向は、コロナ禍でさらに高まり、外出を控え、行き場がなく、気軽に相談できる機会のない状況の中で、一層の孤立感を深めている現実があります。

そのような状況を踏まえて、市では全ての子育て世帯を対象に、子どもの預かり事業やＳＮＳなどを活用した相談事業などを行う**「ファミリーサポート事業」**を開始しました。事業の詳細は、次ページをご覧ください。

問合せ
子育て支援課 ☎35-3140